

# 河川関係事業

## 河川関係事業のポイント

### I. 危機管理対策の強化

#### ◇水害・土砂災害への備え

平成 18 年 7 月豪雨災害等、繰り返し発生する風水害、さらに地球温暖化による集中豪雨、台風の巨大化に備えるため、被害の最小化を目標にリスクガバナンスを再構築し、備災、減災、克災\*の各段階の対応を充実、強化します。

※災害に立ち向かい克服していく自助の力強い姿勢を表現した造語

- ◎平成 16 年、平成 18 年に災害が発生した狩野川、長良川、宮川、天竜川等の再度災害防止対策として河川激甚災害対策特別緊急事業、床上浸水対策特別緊急事業等を推進
- ◎伊勢湾奥のゼロメートル地帯の大規模浸水対策として、日光川水閘門大規模河川管理施設機能確保事業を推進
- ◎東海ネーデルランド高潮・洪水地域協議会で策定した危機管理行動計画に基づき、平成 20 年度以降、実働訓練を実施していくとともに、継続的に改善



■平成 16 年 9 月台風 21 号による宮川の被害状況（伊勢市辻久留）



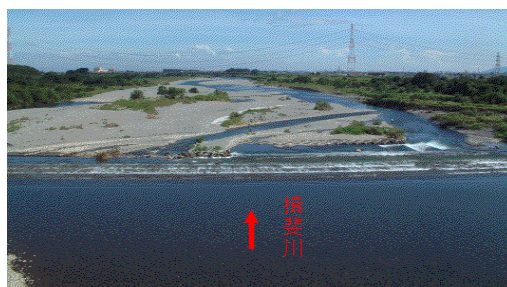
■平成 14 年 7 月台風 6 号による大谷川の被害状況（大垣市荒崎）

#### 【近年発生した豪雨による被害状況】

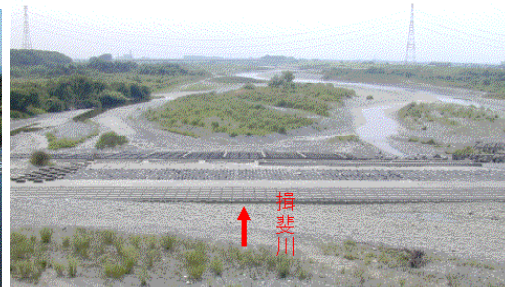
#### ◇渇水への備え

近年の少雨化傾向や年間降雨量のバラツキの拡大により、今以上に渇水の頻発が懸念されるため、都市用水の安定的な供給と河川環境の保全を図ります。

- ◎徳山ダムで開発した水を木曾川、長良川に導水する木曾川水系連絡導水路の建設着手（木曾川水系）
- ◎豊川で渇水時における河川流況改善や用水の安定的供給を図るための設楽ダム建設事業について、用地補償費や準備工を推進

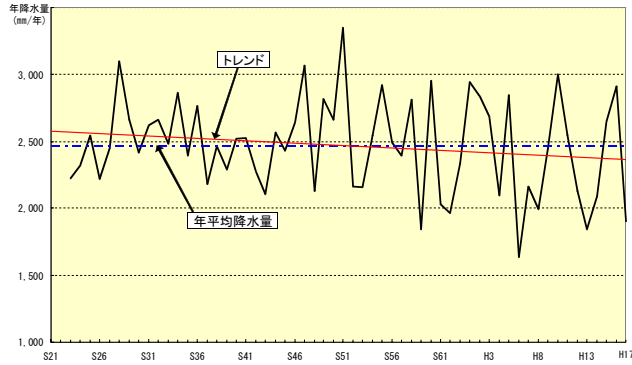


■平常時



■渇水時

#### 【木曾川水系揖斐川の平常時と渇水時状況（安八郡神戸町）】



木曾川水系の年降雨量の経年変化(S23～H17)

### ◇大規模地盤・地殻変動に伴う大規模地震等への備え

東海、東南海・南海地震等の大地震の発生や火山の噴火、大規模地すべりといった地殻、地盤変動等の地異に対する備えを推進します。

- ◎日本の交通の大動脈が集中している静岡県庵原郡由比町由比地区で地すべり対策事業を推進
- ◎静岡市葵区口坂本地区にて、大規模な地すべり対策事業を推進。



■由比地区地すべり（庵原郡由比町）



■口坂本地区地すべり（静岡市葵区）

## II. 美しい国土形成の強化

### ◇水系環境の再生

人間の生産活動等により疲弊している河川環境を再生するとともに、河川を活かしたまちづくりを進めます。

- ◎豊川及び木曾三川河口部においてヨシ原・干潟再生等を実施
- ◎長良川の犀川地区「水辺の楽校整備事業」を推進
- ◎5年連続水質ワースト1となった佐鳴湖において、水質改善対策を積極的に推進

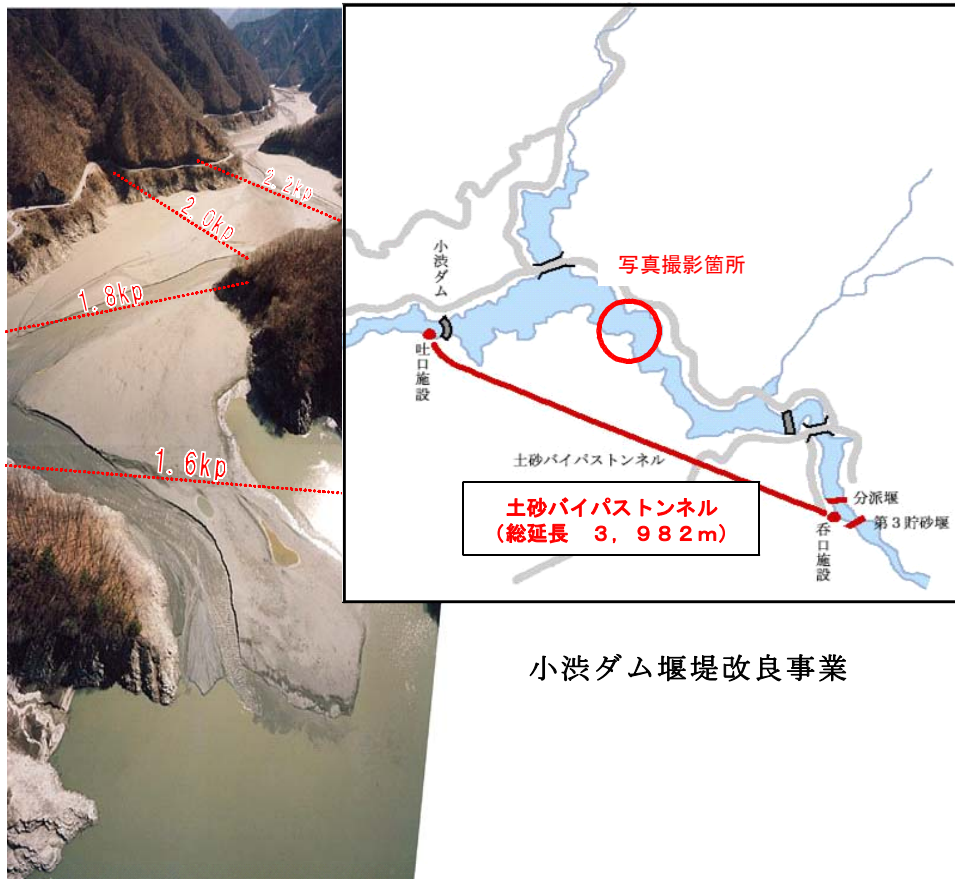


■長良川犀川地区水辺の楽校整備イメージ  
（岐阜県瑞穂市）

## ◇流砂系の回復

中部地方の河川では、土砂堆積によるダム機能の低下、海岸侵食などの問題が発生していることから、水源から河口・海岸までを視野に入れ、土砂移動の連続性を確保するため、総合的な土砂管理を推進します。

- ◎天竜川において、治水機能を新たに確保するとともに、土砂移動の連続性を確保して遠州灘沿岸の侵食対策に寄与する天竜川ダム再編事業の早期建設に向けて、排砂施設の検討、土砂供給による環境調査等を実施
- ◎小渋ダムの堆砂対策として、流入土砂を排除することを目的とした土砂バイパストンネル工事を実施



小渋ダム堰堤改良事業

## 新規事業箇所（水資源機構）

### 木曾川水系連絡導水路事業（建設着手）

#### 1. 事業箇所

- 【上流施設】 呑口：岐阜県揖斐郡揖斐川町（木曾川水系揖斐川）  
吐口：岐阜県加茂郡坂祝町（木曾川水系木曾川）
- 【下流施設】 呑口：岐阜県海津市（木曾川水系長良川）  
吐口：岐阜県海津市（木曾川水系木曾川）

#### 2. 事業概要

木曾川水系では渇水が頻発しており、特に平成6年の渇水では広範な地域で時間断水、用水不足等が発生するとともに河川流量も枯渇し、この地域の社会経済活動や河川環境に深刻な影響が生じました。このようなことから徳山ダムに渇水対策容量を確保し、異常渇水時に木曾川・長良川に緊急水を導水します。併せて、徳山ダムで開発した愛知県、名古屋市の新規都市用水4m<sup>3</sup>/sを木曾川まで導水します。

①事業期間：平成18年度～平成27年度（予定）

②全体事業費：約890億円

#### 3. 整備効果

異常渇水時において、徳山ダムに確保された渇水対策容量の内の4,000万m<sup>3</sup>の緊急水を木曾川及び長良川に導水することにより、平成6年の渇水時には瀬切れが生じた木曾川成戸地点で約40m<sup>3</sup>/sを確保することができるようになる等、河川環境が改善されます。

また、徳山ダムで開発された愛知県及び名古屋市の都市用水を最大4m<sup>3</sup>/s導水し、木曾川で取水できるようにすることにより、渇水の頻発する木曾川水系における水利利用の安定性を向上させます。

